

## 勤労階級の思想的代表者たちが行うべきこと

そして勤労階級の思想的代表者たちが、このことを理解し痛感するとき、彼らはずいぶんことをみとめるであろう。すなわち、「理想」は、最良でもっとも手近な道をつくるということにあるのではなくて、わが資本主義社会のなかで、われわれの目のまえで行われている「社会的諸階級の激烈な闘争」の任務と目的とを定式化することになければならないということ、努力の成果の尺度となるものは、「社会」や「国家」への助言の作成ではなくて、一定の社会階級のなかでのこの理想の普及の程度であるということ、もっとも高い理想でも、もし諸君がそれをみずから経済闘争に参加している人々の利益と不可分に融合させることができなければ、この階級の「狭い」小さな実生活上の諸問題、たとえば「労働にたいする正当な報酬」というような問題——こういう問題にたいしては、大ぶろしきをひらげるナロードニキはきわめて尊大な軽侮の目をむけるのであるが——と融合させることができなければ、三文の値うちもないということである。

第一巻 ナロードニキ主義の経済学的内容 P420

## コメント

勤労階級の思想的代表者たちが行うべきことは、現時点における激烈な階級闘争の明確な『合言葉』を労働者階級に提示することであり、その努力の成果を測る尺度は“どれだけ多くの労働者にこの思想を普及させることが出来たか”である。そのためには、経済闘争、「狭い」小さな実生活上の諸問題と労働者階級の解放の課題とが密接不可分なこと、「融合」した闘争課題であることを示し、労働者の階級的自覚を高めることである。